

「HSK 季刊わたぼうし」 第43号

発行者:わたぼうし連絡会  
発行日:1997年(平成9年)4月10日 '97 春号

第43号のテーマ 「東海北陸車いす市民交流集会」報告

障害の手で ちぎり絵に 愛を盛る 比呂雪

この機関紙は障害のある人、ない人が自由にそれぞれの考えを出し合い、主義・主張を越えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

# 「東海北陸車いす市民交流集会」報告

## 障害者支援施設 利用者・視覚障害

皆さん、こんにちは。

私は11月23日と24日の二日間、愛知県名古屋市の社会福祉会館を主な会場として開かれた「東海北陸車いす市民交流集会」に参加しました。編集委員さんからそのときの様子を書いて欲しいという依頼があり、文を書くことが苦手な私がおもったので、一度ことわったのですが、是非、答えて欲しいとのことなので、ここに書かせていただこうと思いません。

### 1.交通機関

行き、帰り共にタクシーと自動車を利用しました。

まず23日は、朝、早起きをしてタクシーで七尾駅へ行き、6時36分発で金沢まで行きました。その後乗り換えをして金沢から名古屋まで7時45分発で行きました。名古屋駅に着いてからはボランティアの人に介助してもらい、地下鉄に乗って会場の近くまで行きました。私は地下鉄に乗ることは初めての体験でした。途中、買い物をしなければならなかったため、地下鉄を降りてから用事を済ませて、そして会場に入りました。

24日はスタッフの人に名古屋駅まで送ってもらい、午後4時55分発の車で金沢まで行きました。その後、乗り換えをして金沢から七尾まで行き、タクシーで彩光苑に戻ってきました。

### 2.主な内容

23日は2時から開会式。2時30分から基調講演、4時から事例報告という順序で進んでいきました。

基調講演は「私たちが目指す自立生活」というテーマでした。事例報告は静岡県での障害者への取り組みについての報告でした。その後、6時からホテルで夕食をかねての交流会、8時からオプションツアーと続き、一日目が終わりました。

24日は9時30分から12時まで分科会、その後、昼食と休憩、1時30分から分科会の報告と閉会式、2時30分に解散という日程でした。分科会は四つあり、その中から自分の聞きたいものを選んで聞きました。

二日間の日程を書いてきましたが、その後、その中から私が印象に残ったオプションツアーと分科会について書きたいと思います。そして最後に、外出についての私の考えを書きたいと思います。

### 3.オプションツアーについて

一日目の研修と夕食をかねての交流会が終わった後、夜の町へ出ようということで計画されたオプションツアーに参加しました。私はその中のカラオケツアーに行って来ました。

夜の8時過ぎに出発したのですが、カラオケの時間が一時間後の9時からだったので、私たちはその間、外の夜景を見ていました。たまたま私の近くにいた人が外の様子をいろ

いろと教えてくれました。あつという間に時間になり、カラオケの部屋に入りました。みんなカラオケをしたり、話をしたり、飲み物を飲んだり、ざっくばらんにやっていました。私もそうですが、みんなほとんどが知らない人同士だったのに、友達と一緒にいるような感じで打ち解け合っていました。たくさんの人に写真を撮ってもらいました。そして12時近くにホテルに帰ってきました。すごくよい思い出になりました。

#### 4.分科会について

私は「施設から地域へ・私の体験」というテーマの話聞いてきました。講師は江上佐和子さんという方で、助言者として話をまとめて下さったのは、下次勉さんという方です。二人とも車いすの生活でボランティアの皆さんの協力を得ながら生活しているそうです。

江上さんは富山県の生まれですが、小松市の施設に27年間生活していたそうです。そして今から3年前に、名古屋の福祉ホーム「サマリア・ハウス」というところで、自立を目指して生活をしているそうです。私はそれを聞いたとき、「すごい、なあー」と思いました。

ボランティアの協力を得ながら、自分自身の生活スタイルを作っていく。例えば、朝は何時に起きようとか、何を作って食べようとかということなどを、自分で考えて行動する。そんなことが私には果たしてできるだろうか、そんなことを考えさせられました。それが今の私には全くと言っていいほど、できていないなあーと改めて感じました。

江上さんはまた、長かった施設生活での自分の考えを話して下さいました。その中で心の中に残ったことを話して下さいました。それは車いすで外に出歩くのは、年に2、3回。買い物などで町に出られるのは、年に1回。そして外出をするときは外出届を書かねばならなかったり、親に連絡をしなければいけなかったり、といったことが疑問だと言っていました。

でも、サマリアハウスに来てからは自分で考えて行動することがほとんどなので、楽だと言っていたことが心に残りました。話を聞いてから私が質問したことがあります。それは、そういった施設生活の中で、楽しかったことは何かということでした。すると、「施設の規則を破って友達と外へ出て遊んできたことだ。」という答えが返ってきました。

江上さんの話の後、助言者の下司さんの話を聞きました。江上さんの話を簡単にまとめた後、下司さん自身の生活の話をして下さいました。下司さんの話を聞いて心に残ったのは、「友達と介護者は全く別者だ」ということでした。

友達の方は、せっかく遊びに来ているのに、「トイレ介助をして欲しい」とか「夕食を作って欲しい」と言っていたら、友達との良い関係が悪くなると言っていました。私はそれを聞いて「なるほど」と思いました。

それから下司さんは「遊びの中からもいろいろなことを学ぶことが多いと思う。」と言っていました。私も全くその通りだと思います。というのは、2年ほど前から外出をするチャンスを広げていて、私自身今まで知らなかったことを教えてもらっています。

例えば、2～3人で汽車に乗ることが多くなったので、そのときに、一緒に行く人に切符の買い方を教わるとか、タクシーを利用のときは予約をするときに、自分が目が見えないので玄関の中まで入ってきて介助をして欲しいということを、前もって伝えることをした方がいいということを寮母さんに教えてもらうなどです。二人の話を聞いてとても勉強

になって良かったと思います。

## 5.外出について私が思うこと

私が頻繁に外出するようになったのは、2年前のちょうど今頃(12月)、ある会の忘年会がきっかけでした。長い間、どこにも行かずにじっとしていたので、このままではいけないと思っていたときに、ある人からその会の話聞き、興味を持ったので、もっと詳しく知りたいと思い、聞いたところ忘年会に誘われました。行ってみるとすごく楽しかったので、その次の年に入会して、今ではいろいろな行事に参加させてもらっています。

その他にも、視覚障害者の会や図書館などで計画されている行事などにも、参加するようになったおかげで、とても充実しています。

さらに、今回は初めて名古屋に行きました。これは今までに経験したことの中で、一番勉強になりました。私は外出というのは、外へ出て遊びの中からさまざまなことを学ぶことだと思います。

名古屋ではちょっとしたハプニングがあり、スタッフに迷惑をかけたこともありました。が、とても良い思い出になりました。これからもたくさん場所へ行って勉強をしたいと思っています。うまく書けませんでした。が、この辺で私の報告を終わらせていただきます。

乱筆、乱文ながらありがとうございました。

## 「シンガポール旅行」の体験

## 地域住民・肢体障害

石川県が主催する平成8年度「石川ほほえみの翼」に応募し、団員として平成8年11月5日~4泊5日の5日間、シンガポールの障害者施設の見学と交流を行うたびに参加しました。

今回の参加のきっかけは、青山彩光苑の職員から勧められたことによりですが、私自身、低額で障害者同志で参加すること、海外へ行った経験がなく、学校で習った英語を実際に使ってみたかったこと、そして、海外を見ることで「自分の考え方が変わることを期待して」参加することを決めました。

旅行の際、自分の左半身麻痺障害については、自分で歩くことができるし、また、障害を持ってからも一人暮らしの経験もあり、全く不安を持っていませんでした。また、家族との旅行は家族の自家用車でしたが、特に目立って困ったことがなかったからです。しかし、正直、例え足手まといになったとしても同じ障害者同志だから理解してくれるだろうか、同行する関係者も覚悟の上だろうか、の甘い考えもあったと思います。

旅行当日は、集合場所の金沢のセンチュリーホテルに集合し、他の参加者と自己紹介をすませ、結団式後、電車で小松空港に向かいました。ここで、一人で歩けるとはいっても、荷物を抱えての歩きは、なかなかうまくいかず。他の参加者は視覚障害や聴覚障害といった足の方は正常な人たちだったので、移動に後れをとってしまいました。空港でも車いすに乗るように勧められましたが、自分で歩けるんだという思いが強かった私は、かたくなに拒否していました。しかし、見かねた職員が荷物を持ってくれました。そのうちに、私

は履きなれない靴を履いてきたため、左ひざしたを自分で動かさないので、歩くたびに靴が脱げて、さらに遅れをとるはめになり、足手まといになることを痛感したので、車いすに乗ることになりました。

現地シンガポールには、飛行機に7時間で到着し、宿泊するホテルは全行程同じでしたが、障害者職業能力訓練校で共に籍を同じくした女性と同室となり、共通の話題で楽しく過ごしました。

2日目は、専用の観光バスで、いろいろと名所を回りました。観光バスとはいうものの、どうしても思いながらも、車いすを使うのか。靴のトラブルとはいえ、車いすに乗ることが、自分の甘えのように思えると同時に、回りからもそう見られているような気がして、「左足したけど動かないから」と変に弁解したのでした。このため、事前に行きたいと決めていたところには行けず、ホテルで唇をかみしめていました。十分に理解していると思っていた、車いすを使う障害者の気持ちが良く分かりました。必死に車いすをこいでいるのに、おいて行かれ、前の人の背中を見つめながら、仕方がないんだと自分を納得させるしかありませんでした。どんなに頭で理解していても、現実に本人でなければ分からないこともたくさんあることを思い知らされました。

3日目は、午前と午後に各一カ所、現地の障害者施設を見学しました。どちらの施設も授産施設で、通訳を通して仕事の内容の説明を受けました。

4日目は、前日見学した2つの施設の代表者と夕食を通じた交流会が行われました。

私はこの交流会で、いろいろと質問をしましたが、やりがいを持って仕事をし、仕事以外でも、人目を気にせず、自分のしたいことをする彼らをうらやましく思いました。

今回の旅行では、私は障害者だけど言葉の面では中学校で習った英語のレベルで充分外国人ともコミュニケーションが図れ、行動の面でも今までに行った国内旅行のレベルで、外国旅行でも心配する必要のないことを実感しました。

海外旅行という言葉と障害者に優しい町かが気になるのですが、言葉に関してはガイドも充実しているし、日本人観光客の多い有名な土地ではカタコトながらも現地の人は日本語をだいたい理解できるそうです。後者に関しては外国の方がノーマライゼーション、つまりいろんな人、例えば、異なる民族・国・宗教の人が一緒に暮らす、それは健常者と障害者が暮らすのと同じように、生活することが当たり前という考え方は確立していると思います。

私が最近読んだ本

あなたは私の手になれますか

小山内美智子著

障害が重くなればなるほど「ケアを受けるプロ」になる。ケアを受ける側、する側にとって、二十一世紀のケアとはをともに考える。

**新施設開設情報 能登初・身体障害者が働ける施設**  
**平成9年6月オープン ー利用者募集ー**

- 【名 称】 青山彩光苑  
通所社会就労センター(仮称)
- 【所在地】 鹿島郡田鶴浜町吉田
- 【対象者】 身体障害者手帳を有するやる気のある方。
- 【定 員】 20名
- 【仕事内容】 温室ハウスで水耕ネギ、各称化を栽培し、出荷する作業です。  
(その他、軽作業もあります。)
- 【作業時間】 9:00～16:30  
(週休2日制、年末年始、夏期、祝祭日)
- 【給 与】 技術、作業能力に応じて高額支給。
- 【送 迎】 リフト付きマイクロバスにて送迎。
- 【その他】 旅行、レクリエーション等の各種行事を実施。
- 【問い合わせ】  
青山彩光苑社会就労センター  
開設準備室  
電話0767-57-3309

**県内初**

**身体障害者向けワンルームマンションが開設します。**  
**ー入居者募集ー**

身体に障害がある方が、自立した生活を送れるように、バリアフリーの考えを実現させたマンション感覚の施設が平成9年6月にオープンします。

- 【名 称】 青山彩光苑福祉ホーム(仮称)
- 【所 在 地】 七尾市青山町ろ部22番  
青山彩光苑内
- 【募集対象】 身体障害者手帳を有する方で、自立した生活を送れる方。
- 【施設設備】
- ・全個室 20室
  - ・トイレ、浴室等室内すべてに完備。
  - ・施設内すべて段差を解消。
  - ・冷暖房、24時間給湯など
- 【問い合わせ】  
青山彩光苑  
電話0767-57-3309

## 第2回ボランティアのつどい “笑顔のたねまきしませんか”

去る2月23日(日)午前8時よりボランティア150人により準備開始  
第2回ボランティアのつどい“笑顔のたねまきしませんか”が開催されました。

12:30 キャプチュードの演奏  
羽咋市余喜地区を基地として演奏活動をしている。

13:00 オープニング  
”わたぼうしコンサート”でおなじみのわたぼうし、絆の歌でオープニング

13:25 羽咋中学校・邑知小学校(福祉協力校)  
ちびっこボランティアスクールの体験発表  
子ども達の素直な感想が伝わりました。

13:45 H8年度羽咋市ボランティアセンターのあゆみ  
センターの1年間の流れがわかってもらえたかな？  
住んでいて良かった街づくりを目指して!!

14:20 竹中ナミ氏講演  
チャレンジド(障害を持つ人を表す新しい米語)の自立と社会参加についてお話を聞きました。

16:00 体験コーナー 福祉の店も大盛況 皆の顔がイキイキ  
わたぼうし会はパソコン体験担当 インターネットを実演。  
どんな障害があっても使用できるパソコン 障害者の世界もぐ〜んと広がります。

情報展示コーナー  
ボランティアセンターの事業を写真をまじえて説明

## バリアフリー・体験談集

昨今、社会のバリアフリー化が謳われていますが、決して抽象的理念ではなく、一人一人が生活する実社会の中で具体的にバリアフリー化を実現していきたいものです。この資料は富山市にある「富山生きる場センター」の提供によるものです。(編集部)

### 本当のバリアフリーとは…? 高岡バリアフリー住宅

#### 地域住民・肢体障害

ウェルフェアテクノハウス高岡(高岡市博労町)

7月24日に、高岡にできた「バリア・フリー」住宅へ見学に行ってきました。建物の印象は、鉄筋の二階建てで、今風の素敵なお作りでした。玄関の前はなだらかなスロープで扉は自動ドアになっていました。

玄関は段差がなく車いすのままスッと入って行けます。でも、私が思うには玄関と部屋の間には仕切りがあった方がいいと思いました。何だか仕切りがないと一階の部屋全部が、玄関のようで変な感じがしました。あれだけ広い玄関なのだから車いす一台分のスロープを横の方に作り玄関と部屋の境目を作ればいいのと思いました。台所のキッチンは車いすのまま使用できるようになっていて、高さも自由に変えることができます。

台所の中で皆が気に入ったのが、冷蔵庫です。一般の冷蔵庫より低めで中の物が見やすく、冷凍庫も下の方に付いていて使いやすかったです。一般の冷蔵庫だと冷凍室が上に付いていてどうしても取り出せないことが多いですが、これだと楽に物が取り出せて便利です。本当、皆この冷蔵庫が気に入り、持って帰りたいと言っていました。

さて、この家のメインと言えるのが、寝室にある「天井走行式リフト」です。これはベッドからリフトで持ち上げ、トイレ、浴室と移動するという代物です。体の不自由な人がこの話を聞いたら「おお、何てすごい物があるんだ!」と思うかもしれませんが、このリフトには1つ、2つ大きな欠点があるんです。まず1つ目。脇の下と、膝の下に幅20cm、厚さ10cm位の布を1つのフックに引っかけます。それから、徐々にリモコンで操作しながら持ち上げていくんですが、この時に脇の下に力を入れて置かないとストンと落ちてしまいます。

またお尻の下に支えが無いので、「落ちる」という恐怖感が込み上げ、体に余分な力が入り降りた時に、体のあっちこっちが痛くなります。お尻の下に何か支えがあると、安心でき、また楽に動くことができる様な気がします。移動する時体が自然に回転し、誰かが常に支えていないとならない状況です。もう少し改良を重ね障害者の人やお年寄りが安心して使えるようになればいいなと思いました。「天井走行リフト」は確かに介護する側としては、楽な機械かもしれませんが、私はあまりお勧めできません。この機械を使うことによって人としてではなくものとしてみなされる感じがするからです。お風呂場まで吊り上げ移動し、湯船に入れ、洗い、最後に湯船につかりおしまい。そして、また寝室に戻



る時に吊り上げ移動…。何だか、鳥のから揚げみたいな感じがしてあまり気持ち良いものではありませんでした。(まあ、これは私個人の考えですけど…。)

このバリアフリー住宅で思ったことは、建物全ての管理が電気ということです。地震が起きたら、何もできなくなるということが、この家の大きな問題なのかもしれません。本当に住みやすい、安心できる家とはどんな家なのか、人それぞれ見方、感じ方が違うと思います。もし、この高岡にできたバリアフリー住宅を見に行くことがあれば、是非意見を聞かせて頂ければと思っています。私を感じたことと、皆さんを感じたことと合わせてできた家こそ本当のバリアフリー住宅と言えるのではないのでしょうか…。

最近、よくバリアフリーという言葉を目にしますが、今の社会ではまだまだこの言葉が似合うには、程遠いのかもしれません。何年先になるか分かりませんが、本当にバリアフリーという言葉の似合う社会になればいいなあとと思っています。本当、何年先になるのか…。

## 特別寄稿

### 重油流出事故ボランティア

### 地域住民

年明けより、思いがけないロシア船籍タンカー沈没による重油流出で日本海沿岸地域に重油が漂着し、市民総出でその回収作業に追われておりました。

私たち羽咋市商工会婦人部も、何かお手伝いすることはないかと考え、大鍋に1,000人前の豚汁を造ることにいたしました。前日に野菜等のカットなどの準備をして翌日早朝より炊き始めました。寒風の中での作業を終えられた人たちが、次々と部員の差し出す熱い豚汁をうれしい顔で受け取っておられました。「おいしかったよ。」「ありがとう。」のことばと笑顔をいただくと、疲れが一度に吹っ飛びました。このボランティアを通じて部員の輪が更に結束されたことを力強く感じました。

一人の力は小さいですが、団結したみんなの力は大きいと思います。たくさんの部員さんたちの協力を得て少しでも役に立てた甲斐があったとうれしく思っております。重油のことは今は小休止していますが、夏の海水浴や砂の祭典を控えた観光の街、羽咋市は環境に影響はないのだろうか心配をしながら、これからも地域のため、精一杯頑張ろうと思います。

## 「HSK季刊わたぼうし」はどうしたんや？

## 編集委員

また、発行が遅れて皆様に申し訳なく思っています。内容も数年前に比べて落ちてきていることをつくづく思われます。

私自身、中に閉じこもってはいけな思っており、新年度よりいろいろ外へ出ていき、ホットな情報の紙面作り目指します。発行回数も少なくなり、送られてくるのを待っている方には、本当に申し訳ありません。心からお詫びします。私、個人としてはHSK季刊わたぼうしの廃刊は全く考えておりません。体の続く限り続けるつもりです。

昨年、FM局の「ラジオ七尾」が開局し、地域の情報がたくさん流れています。ボランティア、イベントなど、今までになかった情報源です。このラジオを聴いていて、いつも思うのですが、こんなにたくさんの活動があるのなら、この「HSK季刊わたぼうし」もラジオの情報源をもとに、取材もできると思っています。

さて、新年度は以前のように、各号のテーマを決めてそれにそった原稿をお願いし、関連記事を掲載していこうと思います。

それに、各地のデイ・サービス、ショートステイなどの情報を掲載していきたいと思えます。

今春、金沢に開設する療護施設「金沢湖南苑」についても取材し、掲載するつもりです。また、大きな施設ばかりでなく、地域で一生懸命に頑張っている小規模作業所などに訪問し、ホットな情報を掲載したいと思えます。応援して下さい。

## **'97年度の募集テーマ**

### **前期(4～9月)「私のボランティア体験」**

ロシアタンカー重油流出事故による油回収のボランティア体験、施設慰問、各種イベントにおけるボランティア体験をたくさん募集します。

### **後期(10～3月)「地域のバリア・フリー」**

住宅改造にこだわらず、町に出での障害物は何か、あなたの工夫、体験を募集します。

MS-DOSのテキストファイルでも受け付けます。なお、3.5インチフロッピーに事故防止のため、印刷したものを添えていただければ幸いです。フロッピーは必ずお返しいたします。